

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200791		
法人名	株式会社ケアクオリティ		
事業所名	ケアクオリティ和音(2ユニット共通)		
所在地	静岡市葵区緑町8-18		
自己評価作成日	令和5年 6月 6日	評価結果市町村受理日	令和5年 11月 8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階
訪問調査日	令和5年 10月 12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

御利用者様と共に一日一日を楽しく笑顔で過ごし、信頼関係を築き安心して生活出来る事。を大切にしています。イベント事も本格的にこだわり、運動会、お化け屋敷、BBQ、居酒屋さん等工夫し行っています。御利用者様にも運営側にまわっていただく事もございます。地域のお祭りにも参加し地域の皆さまとの関係を持てるように心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は、常勤16名(うち、介護福祉士9名)、非常勤2名で定着率も良く、利用者個人々人についてよく理解している。コロナの5類移行により工夫を凝らした毎月のイベントも再開し、毎月発行する「和音通信」で家族にも積極的に参加を呼び掛けている。また、地区社協の夏祭りにも利用者と一緒に作成したゲーム(ストラックアウト)を出店するなど、地域の行事に積極的に参加し地域に溶け込んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内に職員の目に付く場所に理念を掲げ会議内で再確認できるようにしている。理念に基づいた仕事ができるように心掛けている。	法人の理念「共に生きる、共に歩む」のほか事業所の理念として「笑顔と幸せが集まる和やかな家」で傾聴を大事に、職員も利用者と共に笑顔を忘れぬように毎日の引継ぎ時には唱和している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に参加し組長を担う年もある。地域の夏祭りではブースを出し交流を深められるように取り組んでいる。	公民館での清掃や体操教室に参加したり、横内地区の夏祭りのための景品のお菓子のお話せづくりやゲームの色塗りなど、利用者も一緒に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月認知症研修を行い職員の知識と介護技術向上に努めており運営推進会議にて発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月第4火曜日に開催、参加を通じ参加者からのご意見を活かしている。	町内会長や利用者家族・地域包括支援センター職員も参加し、誤薬防止のため指差し呼称が事故防止に有効の提案をいただき、実施し効果があった。前回の目標達成計画の運営推進議事録の配付については継続している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市への提出物は直接持参し関係作りに努めていたがコロナ禍により郵送となってしまったため、質問などは電話で聞いている。	市の担当者に運営推進会議の議事録のほか「和音通信」を届けるなど、担当者に事業所の考え方や実態を知ってもらうようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束チェック表を行いカンファレンスや委員会にて話し合う場や研修を行い知識向上に努めている。	3か月に1回、虐待防止及び身体拘束の会議・研修を会社独自に作成したマニュアルや身体拘束チェック表をもとに、日々の介護でのスピーチロックなどの有無について振り返りを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的にチェック表を行いカンファレンス、委員会にて話し合う場や研修を行っている。不適切ケアが行われないよう理解を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修を行い支援の必要性を理解するよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者は入居者様、ご家族様との関係を重視し十分な説明を行うことでご家族様の不安や疑問に対応し本社とも連携を取りながら対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見ボックスを設置しご家族様の要望や意見を取り込みやすい環境を整えている。また電話や面会時にて聞き取りを行っている。	玄関のご意見ボックスのほか、家族の面会時には要望等を聞くようにしている。今回、面会時のスリッパの交換についての苦情についてもすぐに改善する等、職員や事業所は積極的に聞き、場面作りができています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常日頃から職員が意見や提案しやすい環境作りに心掛け、個人面談や日頃の会話にて労働環境や関係性作りに努めている。	年2回、職員面談を行い管理者等が運営や管理について職員の意見に耳を傾け、活かしており、職員の働く意欲の向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当や祝い金等もあり、個々の目標を立て目標に対しての振り返り、見直しを共に行う機会を作っている。各種研修への参加を進めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修を行いスキルアップの機会を持つよう働きかけている。職員個々の能力を把握し助言、指導を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	会議や委員会、外部研修を通し他事業所との交流を図れるようにし自施設に持ち帰りサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御利用者様の個々の気持ちに寄り添いコミュニケーションを通し信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や面談時には環境に配慮し質問や不安等に応えるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	暫定プランを作成し今の状況に合った支援を提案、聞き取りの内容やご本人、ご家族の意見を取り入れた内容を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事等を一緒に行うことや暮らしの知識等を御利用者さまに聞き、支え支えられということを大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何かあった時にはその都度連絡し、必要な協力をお願いしている。毎月の様子を書面で報告しご家族様と風通しのいい関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望があれば連絡を取る機会を設けている。	入所前の地域の祭りに参加したり、所有する畑を見に行き、顔見知りとの会話を楽しんだり、畑を耕すなど出かけていく場面を積極的に作っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	御利用者様同士の関係を把握し、居間での席に配慮している、また1F.2Fとの交流の場を作りレクリエーションの中で関わりを持てるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了してもご家族様の相談にのり不安なく過ごせるように関係性作りに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から思いや希望を聞き取りその実現に向け検討することで生活の向上に努めており申し送りや、カンファレンス等で職員間で共有している。	職員の定着率が高く、担当利用者を定めるなど利用者一人ひとりの思いや希望を日々の行動、言葉からくみ取りことができ、職員間で共有のためタブレットや申し送りノートに記入している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様との会話の中や、ご家族様、入所前のケアマネから聞いたことをプランに反映させている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタル測定、顔色、表情にて状態を把握し申し送りにて日常生活の様子を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員と計画作成がアセスメント、モニタリングを行い原案作成、カンファレンスにて皆で話し合いをしている。ご本人様ご家族様の意見を反映するように努めている。	月1回カンファレンスを行い、タブレットや申し送りノートから職員間で共有した利用者の発言、行動パターンについて職員が意見を出し合い、話し合っ利用者本位の介護計画の作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケース記録や健康管理にて申し送り時に情報共有を行っている。また記録の重要性の研修も行い記録の見直しにも力を入れている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現状の把握と職員の意識変化を促し情報共有を徹底することでケアの統一、柔軟な対応力を身につける事ができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域主催の夏祭りに参加し地域となじみのある関係作りに努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々の希望に応じて定期往診の方と受診対応している方がいる。また往診医院は2つの病院と連携を取っており選んでいただいている。	毎月協働医療機関の診察もあるが、入所前のかかりつけ医の希望もあり、送迎は家族が対応している。受診時には施設での生活状況についての記録を渡すなどの支援をしている。家族からは受診結果について報告を受けようとしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護による週一回の訪問、医療連携により情報共有を図り24時間オンコール体制の相談できる体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は病院関係者と必要な情報交換を行い必要に応じ病院内家族を交えたカンファレンスに参加している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化、見取りの指針、意思確認の説明を行い確認結果をもとに医療関係者との連携に取り組んでいる。意思確認についてはその都度行っている。	重度化した場合や終末期の施設の対応については入所時に対応の可能なこと、困難なことなど説明を行い家族に説明確認をしている。またその都度、医師や家族、管理者と話し合いをし、施設が対応する支援方法を踏まえてチームで支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応研修を適宜行い職員への周知徹底を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を御利用者様参加で行っており、避難訓練、消火訓練、通報訓練を取り入れている。	消防訓練は毎年行っており、早い段階で利用者の2階からの非常階段の避難は、消防署が来るまで待機しているように指導がされている。一昨年の市内大規模停電時には備品のランタンや備蓄していた非常食を活用し、食事の提供を行った。	今年度末までに、作成義務のある自然災害BCPの早期作成が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳とプライバシーを尊重した支援に努め研修実施により職員の意識向上に努めている。	研修のほか、日々職員が利用者に向けて発している言葉の内容や語調に注意し、利用者の尊厳を傷つけてしまわないようにさりげない言葉かけや対応に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御利用者様が自分の思いや希望を表現しやすい環境作りに努め会話の中で思いをくみ取れるように努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人様の意見を尊重し無理のない生活ペースを守りながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な理美容の訪問やお化粧、スキンケア、髭剃り等行えるように声掛けし服の選択も出来るよう声掛けしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	御利用者様の食事形態に気を配りながら季節の食材や好物な物を取り入れたメニューを考えている、食事作りや後片付けを皆で一緒に行っている。	以前は管理栄養士の作成したメニューを参考にしていたが、現在は職員と利用者が季節の食材を取り入れたメニューを話し合っ決めていく。食材の買い出しには利用者と職員が一緒に行くこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量、水分量はその都度チェックし健康管理を図る目的にしている、食事形態、栄養状態は医師と連携を図り個人に合わせた食事内容、形態にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛け誘導し口腔ケアを行っている、洗浄剤を使った義歯のケア、仕上げ磨き等口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し適切な排泄方法と排泄環境を行い自立した排泄を支援している。	排泄チェック表を基に利用者の生活パターンやリズムに沿った支援を行い、リハビリパンツから布パンツに変更になった利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便間隔を記録、申し送りし医師と連携を取りながら排便コントロールを行っている。なるべく自然に心を掛けており起床時に牛乳を提供したり、ヨーグルトをおメニューに加えている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調を確認し御利用者様の希望も加味しながら入浴の声掛けをしている、入浴がお好きな方、夕方に入りたい方にはなるべく希望に添えるよう心掛けている。	入浴は施設が決めた曜日や時間帯ではなく、利用者のその時々希望を大切に支援している。季節の入浴剤の活用や音楽を流すなど、リラックスして入浴できるような工夫もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間はゆっくり休んでいただけるように日中の活動を促し、就寝時間を決めることなく自由な夜を過ごせるように心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報はファイルで保管し職員がいつでも確認できるようにし薬変更時は申し送りで共有し必要があれば速やかに医療関係と連携をとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中で役割を持てるよう楽しみが出来るよう個々の生活歴を会話の中で模索し気分転換に外に出るようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望に添えるよう努力し買い物、散歩等出掛けるようにしている。外泊の希望があればご家族と話し合い双方の協力のもと行うようにしていたがコロナ禍により現在は中止にしている。	コロナの5類移行により、入所前の床屋さんに通う利用者や耕していた畑を見に行く利用者もいる、また食材買い出し時には、食材のほか自分の好物を買うこともある。天気の良い日にはサッカーが好きな利用者は敷地内で職員と楽しみながら活動している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様の希望の物を一緒に買いに行き支払いも状況を見ながら出来る支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様、相手先からの許可を得て電話、手紙の支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には季節を感じられるように毎月壁紙作品を工夫している、花壇の花は御利用者様に生けていただく事もある。室温、湿度、明るさ、匂いに配慮し居心地のいい空間作りに努めている。	フロアの飾りつけは季節ごとに利用者の作ったものを飾り、花壇で栽培した季節の花を花瓶に生け、共用空間に飾るなど自宅で過ごしているような環境づくりを心掛けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間には馴染同士が楽しく過ごせるよう座席にも配慮し穏やかな毎日が送れるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用していた家具や、布団、食器好みのカレンダー等持ち込んでいただき居心地の良い空間作りに努めている。	居室は利用者がベッドの配置や家具などを自由にレイアウトし、自宅に居るときと同じように、動かずにベッドにしながら必要な物は手の届く範囲に配置している利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	カンファレンス等でそれぞれの自立度を共有、把握し個々に合った自立支援を行っている。		